

基礎研 レター

【アジア・新興国】 中国保険市場の最新動向(16)

生命保険市場の基礎データ (2014年版)

保険研究部 研究員 片山 ゆき
(03)3512-1784 katayama@nli-research.co.jp

「生命保険市場の基礎データ(2014年版)」は、中国の生命保険市場について、直近5年間の基礎的なデータを中心にまとめたものです。中国において、生命保険事業に関するデータの公表は限定的ではありますが、本レポートが中国の生命保険事業の現況に関する理解の一助となれば幸いです。出典は、主に、監督官庁である中国保険監督管理委員会、中国人民銀行が公表している内容等となっております。また、公表データの制約から、一部のデータは生損保合計値のみのもとなっております。

1 生保収入保険料の推移

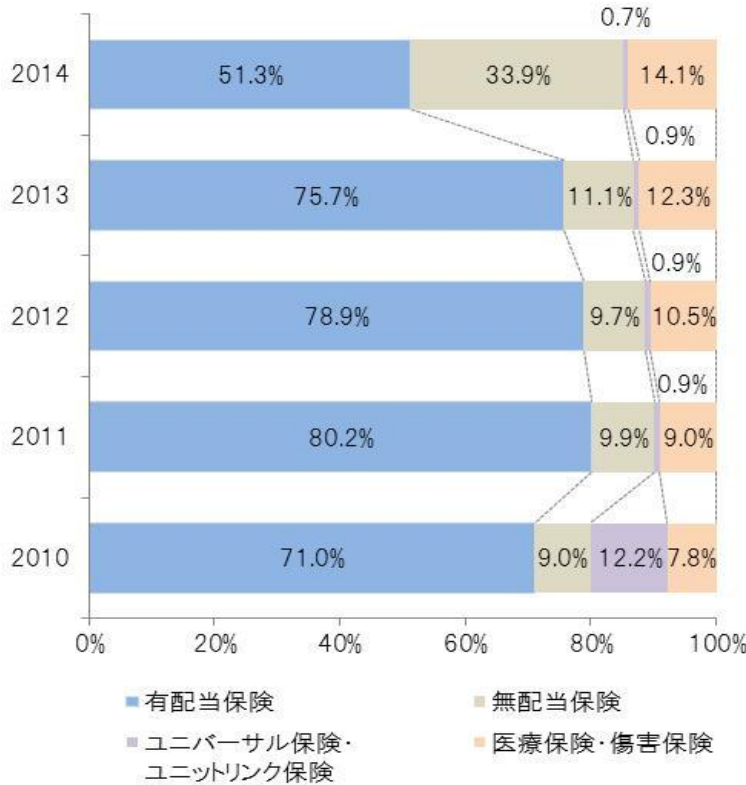
2014年の中国の生命保険(医療保険、傷害保険を含む)の収入保険料は、前年比18.4%増の1兆3031億元(日本円では約26兆円規模)であった。直近5年間の収入保険料の動向は、銀行窓販の規制、会計基準の改訂の影響を受けた2011年を底に、再び増加傾向に転じている。2014年の生保収入保険料は2010年の前年比28.7%増に次ぐ増加率で、収入保険料の規模はこれまでで最大となった。



(注) 中国では、保険を人保(「人身保険」)、物保に分けている。人身保は、生命保険、医療保険、傷害保険を指し、ここでは、広義の生命保険として3つの保険の収入保険料の合計を掲載している。

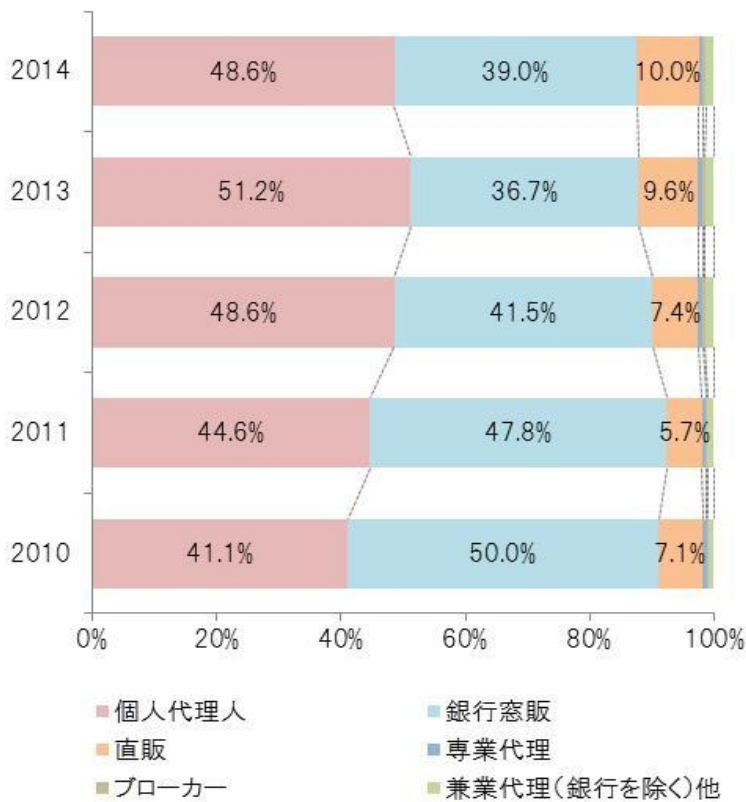
(出所) 中国保険監督管理委員会ウェブサイトの公表データより作成

2-商品構成の推移〔収入保険料ベース〕



(出所) 中国保険市場年報より作成

3-販売チャネル構成の推移〔収入保険料ベース〕



(出所) 中国保険市場年報より作成

2014年の商品構成(収入保険料ベース)は、有配当保険が51.3%と最も多くを占めた。次いで、無配当保険が33.9%、医療保険が11.2%を占めた。

2014年は、有配当保険の構成割合が前年より24.4ポイント減少する一方、無配当保険の構成比が前年より22.8ポイント増加した。無配当保険については、予定利率の上限緩和による販売の伸びが影響していると考えられる。

また、医療保険も増加しているが、2014年5月に、年間2400円を上限とした所得控除の導入が発表されており、国としても医療保険への加入インセンティブを高めている。

2014年の販売チャネル構成(収入保険料ベース)は、個人代理人が48.6%と最も多くを占めた。次いで、銀行窓販が39.0%を占め、この2つのチャネルで、全体の87.6%とおおよそ9割を占めた。

直近の5年間の動きをみると、銀行窓販の割合は減少傾向に、個人代理人は増加傾向にある。銀行窓販は2010年に収入保険料全体の50%を占めていたが、同年に当局からの規制が強化されたこともあり、2011年以降、その割合は減少している。

また、電話やインターネットによる販売を含む直販(10.0%)もこの5年間で3ポイントほど増加している。生保各社もインターネットやスマートフォンのアプリ開発等、SNSを活用した販売を強化している。

4 保険金・給付金等の支払いの推移



(出所) 中国保険監督管理委員会ウェブサイトの公表データより作成

2014年の生命保険の死亡保険金や満期保険金等の支払いは、前年より21%増加して2728億元となった。

また、医療保険の給付金の支払いについては、規模は小さいものの、前年比39%増の571億元と大幅に増加している。

公的医療保険において、自己負担が相対的に高い中国では、国が民間の医療保険を社会保障体系の1つとして重要な位置づけをしている。官民協働による大病医療保険を含め、医療保険の規模は急速に拡大しており、それにもなって給付金の支払いも増加している。

5 主要な保険会社〔2014年・国内系/外資系上位5社〕

国内系生保		保険料収入 (億元)	前年比 増減率(%)	市場占有率 (%)
1	中国人寿	3312.4	1.4	26.1
2	中国平安人寿	1739.9	19.1	13.7
3	新華人寿	1098.7	6.0	8.7
4	太平洋人寿	986.9	3.8	7.8
5	中国人民人寿	787.2	4.6	6.2
外資系生保		保険料収入 (億元)	前年比 増減率(%)	市場占有率 (%)
1	工銀安盛(仏アクサ)	154.0	49.7	1.2
2	友邦人寿(米AIA)	105.7	12.3	0.8
3	中美聯泰(米メットライフ)	67.5	19.1	0.5
4	中意人寿(伊ゼネラル)	56.1	17.1	0.4
5	招商信諾(米シグナ)	53.0	25.1	0.4
国内系生保(計)		11956.5	17.9	94.2
外資系生保(計)		733.8	22.9	5.8
保険会社合計		12690.3	18.1	-

(注) 市場占有率は、生命保険会社(合計)の保険料収入に対する占有率となっている。前掲の1—生保収入保険料の推移における医療保険、傷害保険等には損害保険会社による保険料収入が一部含まれている。

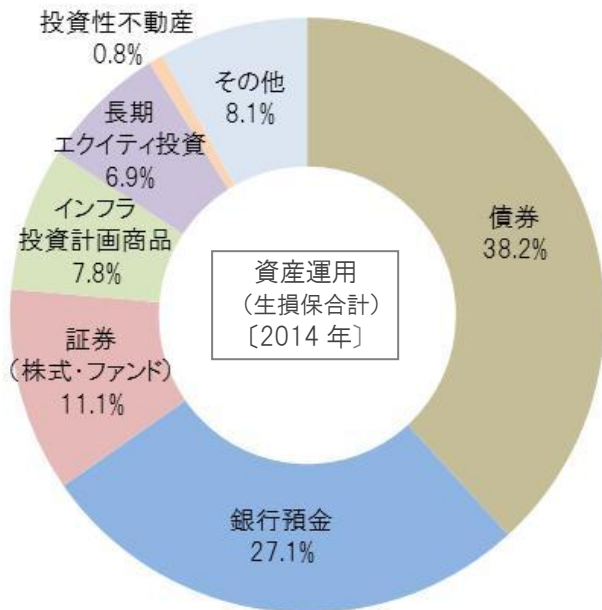
(出所) 中国保険監督管理委員会ウェブサイトの公表データより作成

2014年、国内系の生命保険会社(医療保険専門、企業年金専門の保険会社を含む)は43社、外資系の生命保険会社は28社であった。

中国の生命保険市場は、国内系生保による市場の占有率が高い。2014年の生保の収入保険料をみると、最大手の国内系生保5社のみで62.5%のシェアを占め、国内系生保全体では保険料収入の94.2%を占めている。ただし、首位の中国人寿のシェアは減少傾向にある。

一方、外資系生保は、工銀安盛、招商信諾といった、銀行の出資が50%以上の保険会社の収入保険料が急速に伸びている。また、外資系生保全体でも収入保険料は前年比22.9%と大幅に増加した。

6 資産運用状況〔2014年・生損保合計〕



(出所) 中国保険市場年報 (2015) より作成

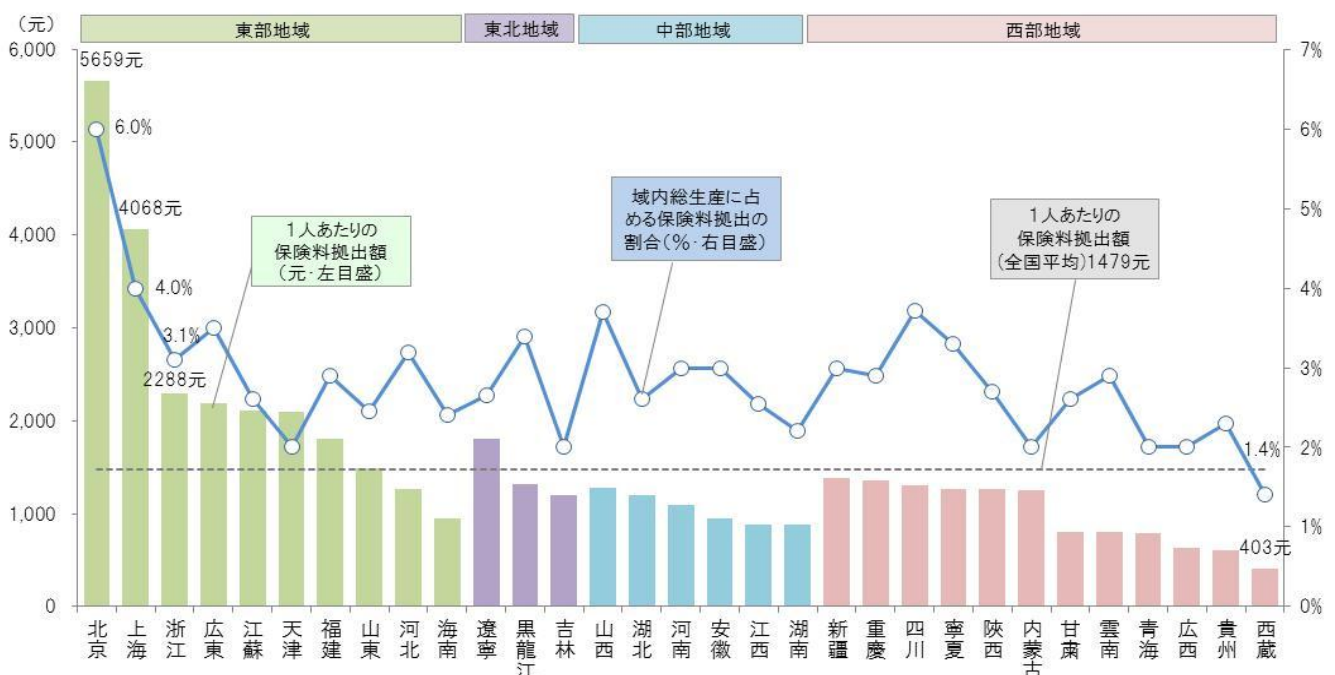
2014年の運用資産残高(生損保合計)は、9兆3314億元(約187兆円、年初より21.4%増)であった。運用は、債券(38.2%)、銀行預金(27.1%)が全体のおよそ65%を占め、インカムゲインの確保を中心とした安全性の高い資産運用に軸足を置いている。

一方、2014年は、好調な株式市場を背景に、インフラ投資計画商品(年初より66%増)や長期エクイティ投資(年初より59%増)など利回りの高い商品への投資も増加している。

2014年の運用収益は5359億元で、利回りは6.3%、利回りが6%台を回復したのは2009年以降、5年ぶりであった。

7 保険の普及状況〔2014年・生損保合計〕

2014年の各地域における保険の普及状況について、「1人あたりの保険料拠出額(生損保合計)」をみると、全国平均値は1479元(約30,000円)で、2013年より214元(約4,300円)増加した。地域別でみると、経済が発展し、所得の高い東部地域の普及が最も進んでおり、中でも北京市、上海市が突出している。東北地域、中部地域、西部地域に属する多くの地域では全国平均値の1479元以下であるのに対して、1人あたりの保険料拠出が最も多い北京市(5659元、約113,000円)は全国平均値の3.8倍の規模となっている。また、1人あたりの保険料拠出が最も少ない西藏(チベット)自治区(403元、約8,000円)は全国平均値の約1/4となり、北京市の1/14にとどまるなど、地域によって、普及の格差は大きい。



(出所) 中国区域金融運行報告 (全国)、地域毎の金融運行報告より作成